

未来へつなぐ改修工事

― 受け継がれてきた歴史と伝統技術を守るために ―

問 観光課 (☎82・2457 / IP ☎88・9081)

室生寺では現在、国宝の金堂、五重塔や国指定重要文化財の御影堂の保存修理工事と、太鼓橋の改修工事が進められています。今回、その目的や改修への思いについてお話を伺いました。

◀ 大本山 室生寺
教化広報執事 山岡 淳雄さん



改修を行う理由を教えてください。

建物の老朽化が進んでいることに加え、文化財保存のための国の補助制度の対象となる時期を迎えたことが大きな理由です。金堂、五重塔、御影堂は屋根が痛み、場所によっては応急処置をしている状態です。また、太鼓橋も欄干の腐食が進んでいたため、安全面を考慮して改修を行うことになりました。

どのような改修を予定していますか？

金堂、五重塔、御影堂は屋根の葺き替えを行います。金堂には「柿葺」、五重塔は「檜皮葺」、御影堂は「厚板段葺」と、それぞれ異なる日本の伝統的な技法が使われています。これらを当時と同じ工法で修理します。

金堂【柿葺】

サワラ、スギなどの木材を薄い短冊形にし、竹釘などで固定して葺き重ねる工法。周りの木の枝の落下などにより穴が空いてしまったため、現在は全体をトタン葺きをしている。



御影堂【厚板段葺】

厚い木の板を屋根に並べて覆う工法。御影堂では二段重ねになっている。



五重塔【檜皮葺】

薄く剥いだヒノキの皮を1枚ずつ丁寧に何重にも重ねていく工法。薄い檜皮だからこそ表現できる屋根の美しい曲線は、日本建築ならではの魅力の一つ。



※イメージ図

伝統的な技法で改修を行うのはなぜですか？

新しい技法や素材に置き換えると、素晴らしい技術を持つ職人の仕事が終わってしまいます。職人の数が減少しているという課題もあり、伝統を途絶えさせないためにも昔ながらの技術を守ることが大切だと考えています。



改修に対する思いを教えてください。

五重塔は室生寺にある建物の中で最も古く、1200、300年前に建てられました。が、当時の姿からほとんど形を変えていません。五重塔が建てられてから現在までの長い歴史の中の一部分である人間として、室生寺を守り続けてきた方々の気持ちを大切に守っていききたいです。また、大切にされてきたものを自分たちの代で壊してしまうのではなく、次の世代にきれいな状態で受け継ぎ、守るために改修が必要なものだと思っています。

改修後に期待していることは何ですか？

遠方から来られる方だけでなく、特に近隣の方々に「近くに凄いものがある」と知っていただきつけかけの一つになればと思います。また、室生寺ではライトアップや季節の花の展示等のイベントを行い、歴史的な建造物が好きな方だけでなく、様々なきっかけで気軽に訪れていただく仕掛けをつくっています。



▲過去のライトアップの様子

改修は国からの補助があるとはいえ、莫大な改修費用が必要で、維持管理がとても大変です。改修やイベントなどをきっかけに室生寺へお越しいただき、引き継いでいくことの大切さや、宇陀市の宝の一つに室生寺があるということとを、一人ひとりが知って、周りの方々に伝えていただければ嬉しいなと思います。

改修スケジュール(予定)

- 令和7年度 御影堂内 壁画修復
- 令和8年4月24日～ 五重塔・金堂の屋根修復に向けたクラウドファンディング開始
- 令和8年7月～ 五重塔・金堂 屋根の葺き替え工事のための資材運搬用モノレール設置
- 令和8年7月10日～ 太鼓橋 改修開始
- ～令和8年9月中旬 太鼓橋 改修終了
- ～令和9年3月末 五重塔 改修終了
- ～令和10年3月末 金堂 改修終了
- 令和10年6月～ 御影堂 改修開始
- ～令和10年12月末 御影堂 改修終了



▲資材運搬のためのモノレール設置の様子

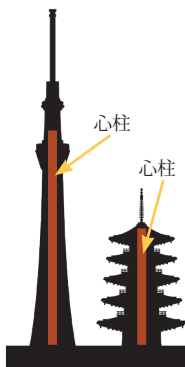


▲太鼓橋 改修前



▲改修中

屋根は30年ごとに葺き替える必要がありますが、100年以上持つ屋根材や工法の方が良いと思われるかもしれませんが、しかし、30年ごとに屋根を外すことで内部を点検でき、大きな傷みを早期に発見できます。定期的に建物を守るためにあえて30年しか持たないような当時の日本の技術者が考えていたのではないかと思います。



地震や強風による力を逃がすためにこの建て方になっていますが、当時の技術が現在でも使用されるほど確立された工法だったと考えると、凄い技術の建物が近くにあるんだな、と思いますよね。

最先端のものをすぐに取り入れる時代だからこそ、こうした日本独自の昔からあるものを大事にする気持ちが必要だと思います。

5 天野山 金剛寺

住所：大阪府河内長野市天野町 996

☎ 0721-52-2046

アクセス：南海高野線・近鉄長野線「河内長野駅」下車、南海バス「天野山」下車、徒歩すぐ

6 万年山 慈尊院

住所：和歌山県伊都郡九度山町慈尊院 832

☎ 0736-54-2214

アクセス：南海高野線「九度山駅」下車、徒歩 20 分

7 不動坂口 女人堂

住所：和歌山県伊都郡高野町高野山 709

☎ 0736-56-3508

アクセス：南海高野線「高野山駅」下車、南海りんかんバス「金剛峯寺前」下車、徒歩 20 分

「女人高野」全体マップ



宇陀市の「女人高野」



令和2年、「女性とともに今に息づく女人高野」時を超え、時に合わせて見守り続ける癒しの聖地」が日本遺産に認定されました。

宇陀市の室生寺ほか3寺と、大阪府河内長野市、和歌山県九度山町、高野町の文化財で構成されており、所在する4市町では「女人高野日本遺産協議会」を組織し、啓発活動などに取り組んでいます。

3 室生寺 (室生 78)

同じ真言宗で女人禁制だった高野山金剛峯寺に対し、女人の参拝を受け入れ、女性の信仰を集めました。室町時代以前の建造物は国指定文化財とされ、本堂、金堂、五重塔は国宝とされています。五重塔は、屋外に建つ五重塔としては、日本最小の古塔です。

☎ 93-2003

アクセス：近鉄大阪線「室生口大野駅」下車、奈良交通バス「室生寺」下車、徒歩 5 分

4 佛隆寺 (榛原赤埴1684)

空海の弟子である堅恵が創建したといわれています。辻堂には鎌倉時代末の地蔵石仏が祀られており、堅恵廟と伝わる石室（重要文化財）や、空海が唐から持ち帰ったと伝えられる茶臼があります。

☎ 82-2457 (宇陀市観光課)

アクセス：近鉄大阪線「榛原駅」下車、奈良交通バス「高井」下車、徒歩 30 分

1 安産寺 (室生三本松 2932)

祀られる地蔵菩薩立像（重要文化財）は、言い伝えによれば、その昔、豪雨で宇陀川が増水した際に上流より流されてきたもの。一説には、室生寺金堂の本尊と酷似しているため、近世に室生寺から移されたともされています。また子安地蔵とも呼ばれ、安産・子授の信仰を集め、多くの女性が参拝しています。

☎ 090-3268-5859 (事前予約)

アクセス：近鉄大阪線「三本松駅」下車、徒歩 10 分

2 大野寺 (室生大野 1680)

役小角が開き、空海が室生寺開創と同時期に建立したとされています。対岸の岸壁には国内で最も高い磨崖仏である弥勒仏が線刻されています。本堂の地蔵菩薩立像（重要文化財）は「身代わり地蔵」の名で親しまれています。

☎ 92-2220

アクセス：近鉄大阪線「室生口大野駅」下車、徒歩 5 分

日本遺産とは

地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを日本遺産として文化庁が認定するものです。

ストーリー

高野山では、近代まで「女人結界」が定められ、女性が境内を参拝することは叶いませんでした。そんな時代にあっても、女性たちの身内の冥福を祈る声や、明日の安らぎを願う声に寄り添ってきたお寺があります。それが「女人高野」と呼ばれるお寺です。

優美な曲線を描くお堂の屋根、静かに願いを聴いているかのような柔和な表情の仏像、そして四季の移ろいを映し出す周囲の樹々。これらが調和した美しい「女人高野」の姿は、時を超えて今も息づいています。時代が変わっても、女性たちの願いや祈りに寄り添い、訪れる人々の心を癒し続けています。